

釣れ釣れなるままに

2013年思い出の釣行記 PART. 4

苫小牧港のニシン 鹿島釣狂

☆釣行日	平成25年4月14(日)
☆入釣場所	苫小牧西港中央北埠頭
☆天候	曇り 南南東の強風
☆釣果	ニシン32cm 27cm

いよいよ釣りシーズンに突入したのだが、週末ごとに天気が荒れて、なかなか釣りに行く機会に恵まれなかった。釣り会の情報も聞こえるようになってきたが、ホッケはまだまだ岸寄りせず釣果があがっていないようだ。7日は、室蘭港や苫小牧港で50cm台のクロガシラが上がったと報じられた。「つりしん」の釣況MAPではまだまだ0~2匹とあるが、釣果はなくても竿だけでも出してみるかと苫小牧港に向かった。昨年のアナゴ釣りの時に、津波の影響で中央南埠頭周辺は泥に埋まってしまうさっぱりだとの情報を得ていたので、その対岸にある中央北埠頭にした。

埠頭についてみると、フェンス際に昨夜からクロガシラを狙った車が並んでおり、その横にニシンを狙った釣り人が続いてその端に貨物船が停泊していた。釣り人たちと貨物船の間に二人ほどの隙間が空いていたので、貨物船の艦^{とも}際に釣り場を設定した。そしてその貨物船の裏側に向かって打つ。更に左隣はサビキ釣りなのでオマツリを心配することもなく広角に打つことが出来た。

2本のクロガシラ仕掛けにアミを詰めたロケットカゴをつけて出来るだけ遠投した。そして、夜が明けるまで少しの時間だが竿先にケミカルライトを付けた。そうこうしていると、隣との隙間にご夫婦の釣り師が入り、防波堤にサビキ器機を置いて車の中に入った。なにせ、今日は風が強く、気温も低いのだ。明るくなってきたので竿をもう2本出して素バリで遠投した。しかし、今日はアタリが皆無でヒトデも掛からない。隣のご婦人が投げサビキを始めたので、私も道具入れの隙間に忍び込ませてあったサビキを見よう見まねで引いてみたが、やはりアタリは出ないので結局車の中で待機することになった。

隣の夫婦が車から慌しく出てきた。そして、今まで自動シャクリ機に任せていた竿を手を持って熱心にサビキはじめた。なんでも遠くの方でニシンが上がったらしい。それを見たご夫婦がこの時ばかりと竿を手持ちに変えたのだ。私も慌てて車から飛び出てサビキ竿を上下させた。

9 mほどの長竿を操っていた夫婦の隣の釣り人にニシンがダブルで掛かった。そして奥さんの方が先に35 cm程もある大型のニシンを掛けた。そして旦那にもニシンが掛かった。今度は私かなと思うが竿先に変化はない。またまた旦那の自動シャクリ機に掛けた竿が激しく揺れている。手持ちの竿を置いて自動シャクリ機の竿を上げた。何と4匹も同時に掛かって岸壁に上げるときに手こずってしまって、1匹はばらしてしまった。そして、コンクリートの上をバタバタと跳ねる3匹のニシンがその隣に置いた手持ち竿の仕掛けに絡みついてしまった。奥さんも協力して手早く絡みを解いている。私に掛かった。慎重に上げたが、27 cmほどのものだった。その後すぐに32 cm程をもう1匹を追加する事が出来たが本当に一瞬の出来事だった。辺りはまた元の静寂に包まれた。マキエも打っていない。サビキにアミを擦りつけるようなこともしていない。みんながみんなそんな風だった。

隣の夫婦は10本ほどを確保しただろうか。この付近では一番の竿頭だ。クーラーがまたドデカイ。釣り上げたばかりのビカビカのニシンを手早く洗ってそれに仕舞い込んだ。私はこんな時のためにと用意した丸形のフラシに入れようとして取り出したがチャックが閉まらない。昨年のアナゴ釣りで使った後、そのまま洗わないでいたのが災いしたようだ。

隣の夫婦が帰り支度を始めた。そして、港の作業員がやって来て「ここでは釣りができないよ」と促されてその場を明け渡さなければならなくなった。私は、他に移動する元気も出なくて、一度もクロガシラからのアタリを味わうこともなく苦小牧港を去ることとなった。



強風で釣り人が車の中に避難する中、鳩が散歩にやってきた



ニシンは32cm程の良形だった